

# 給水配管を耐震試験

## オーエヌ工業 6階建てビル想定

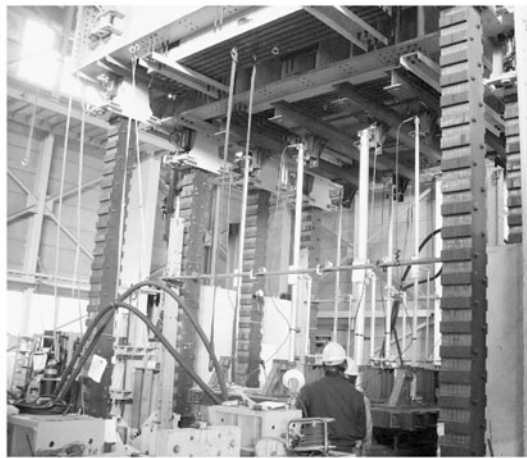
【岡山】オーエヌ工業

(岡山県津山市、中村政弘社長、0868・28・01

71)は、愛知工業大学耐震実験センター(愛知県豊田市)で給水配管の耐震試験を実施した。地震では高い建物ほど揺れの影響を大きく受けるが、試験は6階建てビル内部の配管が受ける振動を想定して行った。試験結果を今後の製品開発などに生かすのが狙いだ。

阪神・淡路大震災と同等の800ガル(震度7相当)の加速度で最も大きな揺れが生じる6階部分の地震波を計算。これを

上回る振動を、設置した配管に与え、口径や継ぎ手の位置、支持方法などの違いによる影響を調べた。



愛知工業大学での耐震試験

試験を行ったのは口径が50ミ、75ミ、100ミの3種類のステンレス配管。立て管を中心に同社の配管用継ぎ手「ナイ

スジョイント」を取り付け、最大で加速度1000ガルの振動を30秒間与えた。さらに配管内部の水に20キロの圧力を加え、水漏れが起こりやすい状況にするなど条件を過酷にした。

結果は、全ての条件下

で継ぎ手部分からの水漏れや破損は見られなかった。

同社はステンレス配管製品メーカー。主力の「ナイスジョイント」は地震災害において接続部が外れたケースがなく、安全性が評価されている。

中村社長は「地震で損壊を免れた建物でも、内部は水漏れや冠水などの被害を受けていることが多い。隠れた二次災害を防ぐため、耐震性を高めた製品づくりに取り組んでいく」と語る。